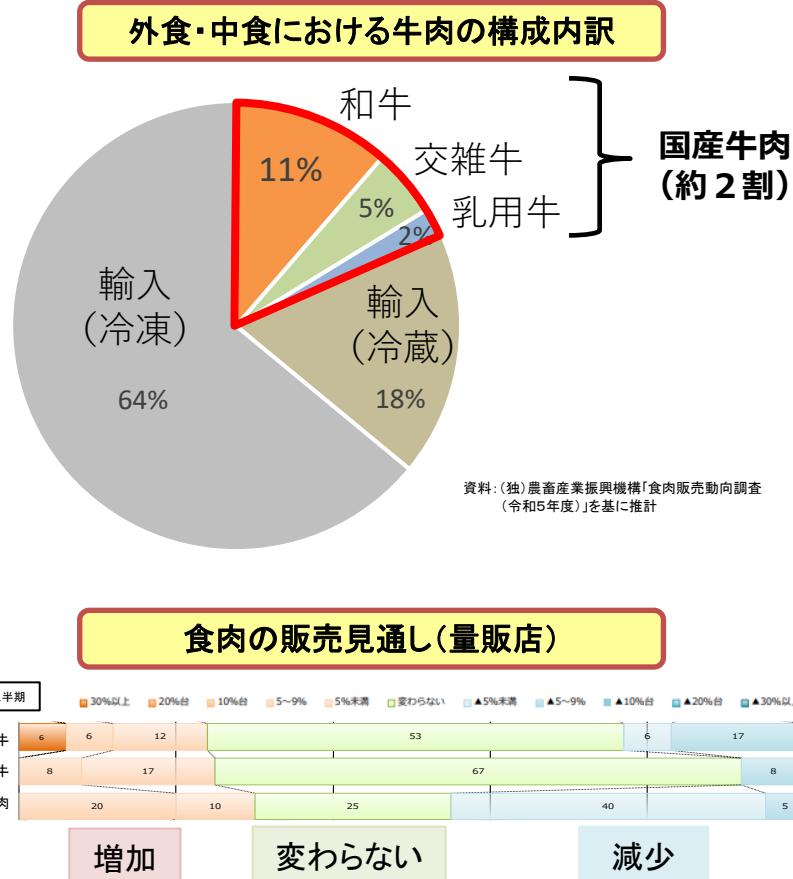
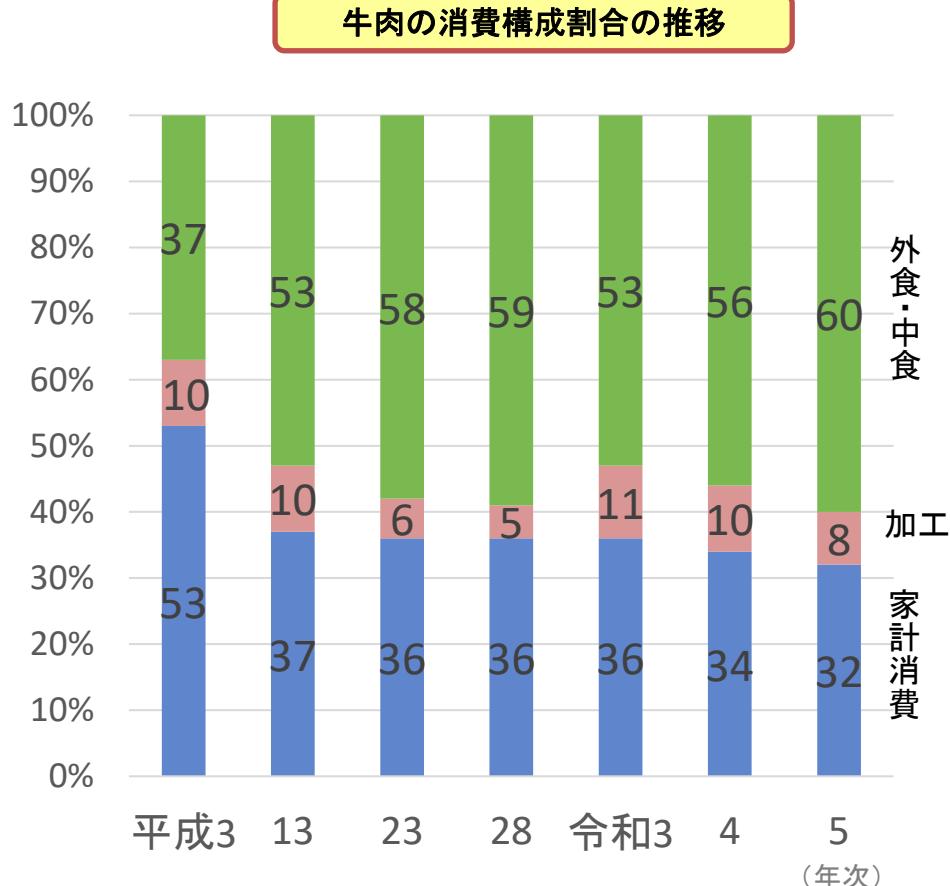


消費動向(消費構成)

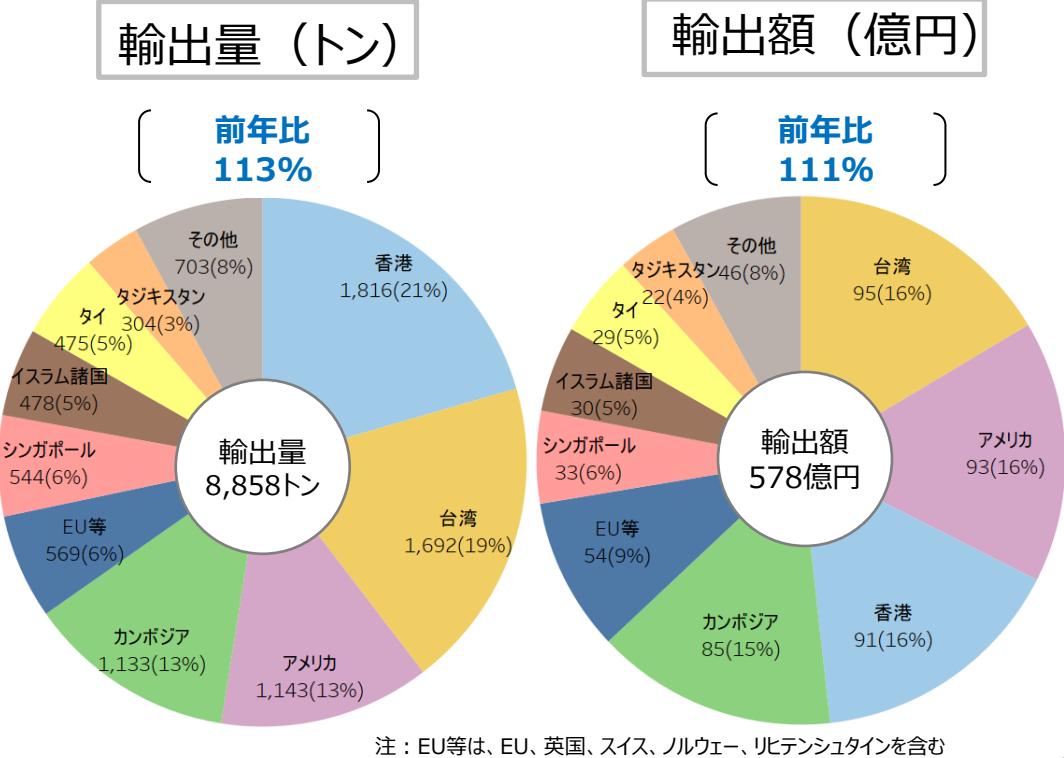
- 我が国における牛肉の消費構成は、近年、外食・中食が6割弱、家計消費が4割弱で推移。外食・中食における国産牛肉の使用割合が約2割。
- 量販店における2024年上半期の販売見通しは増加又は同程度とする見込みと回答した企業は、交雑牛で8割弱、乳用牛で9割となっている一方、輸入牛肉は輸入価格の上昇等の影響で、5割弱が減少の見込み。



輸出動向

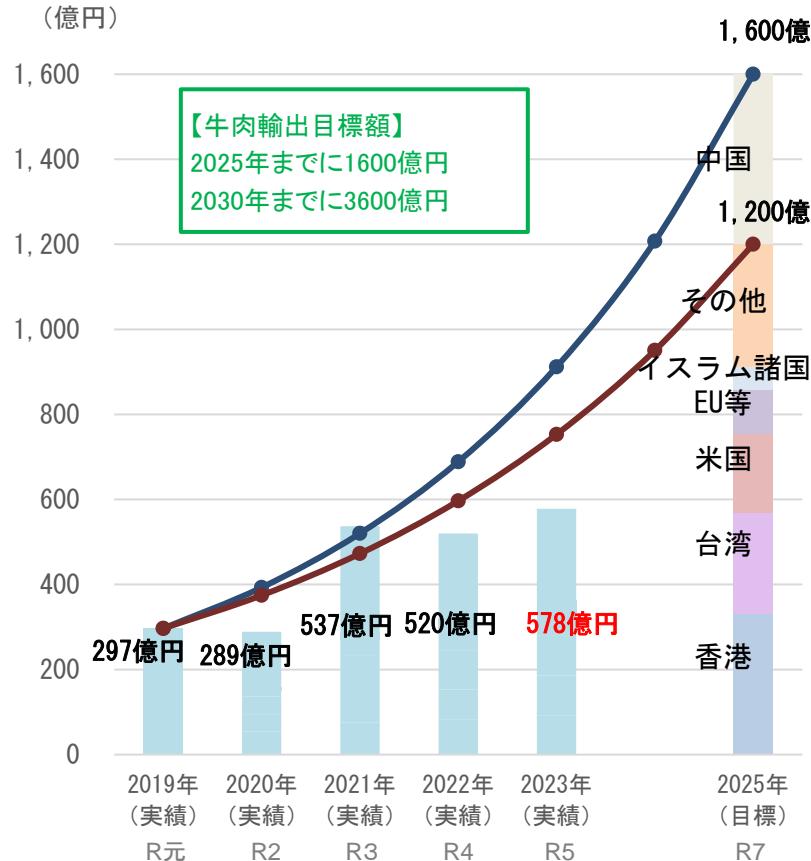
- 2023年の輸出実績は、輸出量は前年比113%の8,858トン、輸出額は前年比111%の578億円と過去最高を記録。
- しかしながら、中国等が解禁されていない中、現行の目標である2025年1,600億円、2030年3,600億円とは大きな乖離が生じている。

国・地域別 2023年(令和5年)



資料：財務省「貿易統計」より作成

2025年牛肉輸出目標と実績の比較



国内及び海外市場の変化

- 2050年までに日本の人口は約20%減少する一方で、世界全体の人口は30%増加。
- 我が国の畜産の維持・発展のためには、海外市場が不可欠。

国内市場の変化

1990年(H2)

2020年(R2)

▲20%

2050年(R32)

人口	1億2,361万人	1億2,586万人		1億190万人 (2050)
65歳以上の人口割合	12.1%	28.7%		
飲食料市場のマーケット規模	72兆円	84兆円 (2015)		国内市場は人口減少と高齢化に伴い、縮小傾向

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」、農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表(飲食費のフローを含む。)」

海外市場の変化

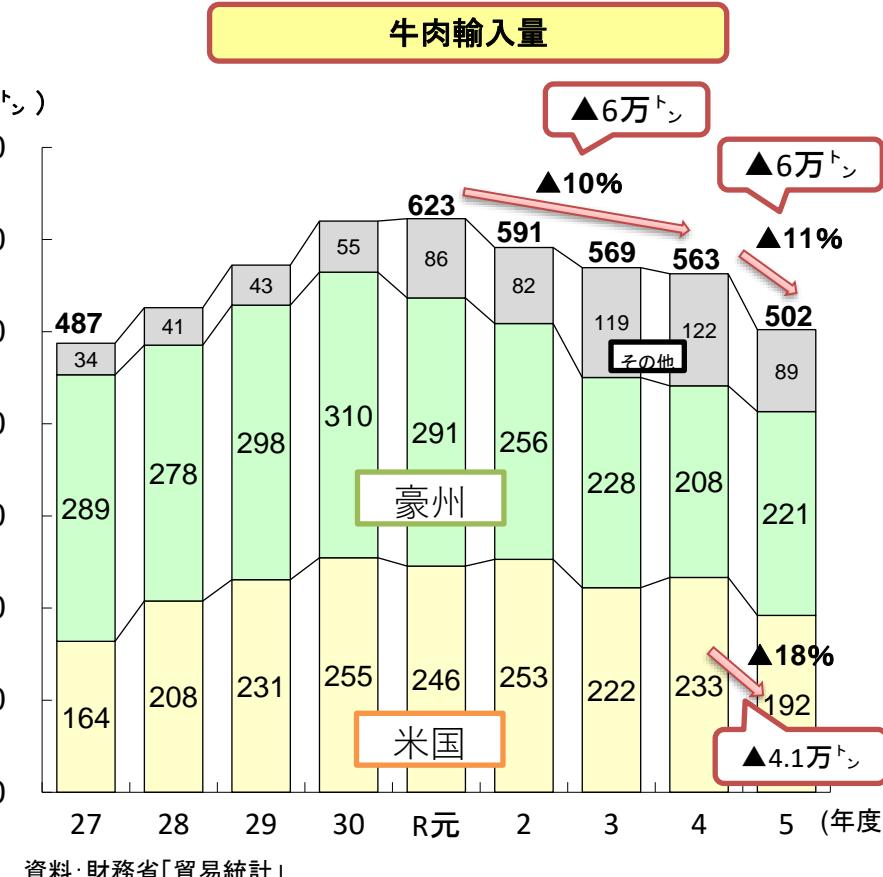
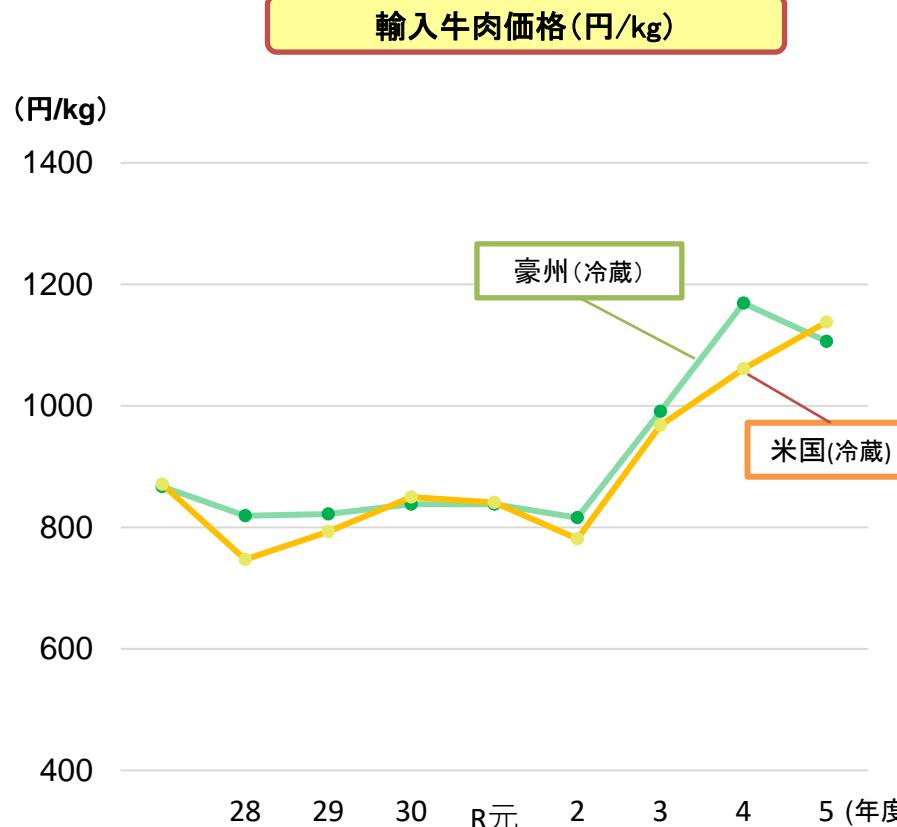
+30%

人口	53億人	78億人		98億人
主要国の飲食料市場のマーケット規模	—	890兆円 (2015)		世界の市場は拡大傾向

資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」

日本の輸入動向

- ▶ 輸入牛肉は、現地価格の上昇や円安により輸入価格が上昇し、需要が減退。
- ▶ 輸入量は減少傾向にあり、令和元年度から4年度までの4年間で10%減少(▲6万トン)。令和5年度は減少幅が拡大しており、前年比11%減少(▲6万トン)。

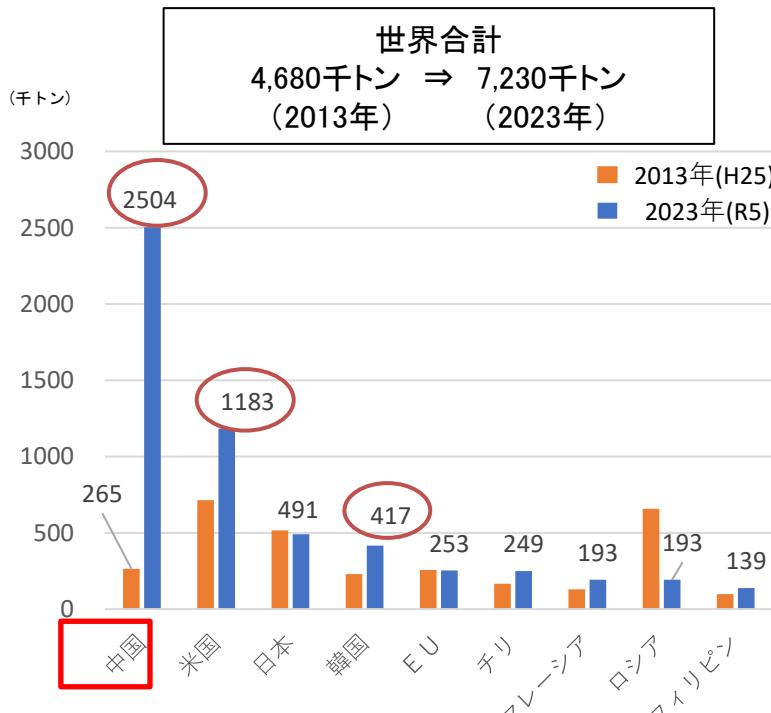


資料:財務省「貿易統計」平均CIF価格

世界の輸入動向

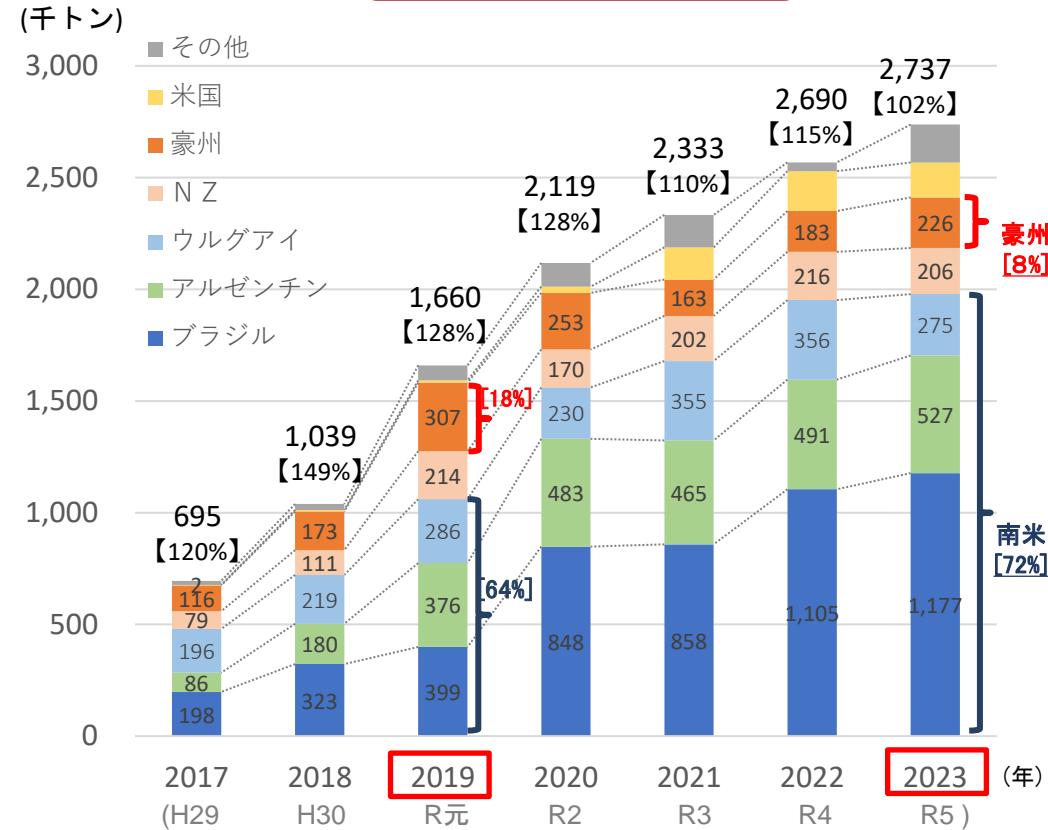
- アジアの牛肉需要の拡大や、米国での牛肉生産量の減少に伴う輸出量全体の減少など、輸入牛肉をめぐる環境は不確実性が増加。
- 中国の牛肉輸入量は10年間で約10倍増加しているが、我が国の主な輸入先国である豪州のシェアは低下しており、ブラジルをはじめとする南米諸国のシェアが大きく拡大。

主要な牛肉輸入国
(2013年 → 2023年)



資料 : USDA "Livestock and Poultry:World Markets and Trade"
(部分肉ベースに換算)
※貿易統計の値では、504千トン

中国の牛肉輸入量の推移



資料 : Global Trade Atlas(対象HSコードは0201, 0202)